

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 106号

2014/08/18 発行  
株式会社 立花商店

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：両市場とも先週比で上昇、3年ぶりの高値に近づく

① 最高 12月 LDN 市場£2,040 /12月 NY 市場\$3,243 (8/15) 先週比 **LDN+£35/NY+\$28**  
② 最低：12月 LDN 市場£2,007 /9月 NY 市場\$3,221 (8/11) 先週比 **LDN+£20/NY+\$26**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£33 (傾向↑) / NY 市場\$22 (傾向↑)  
週内建玉推移：LDN市場 278,043 枚(8/8 終了時)⇒281,530 枚 (8/15 終了時) **+3,487 枚**  
NY市場 217,007 枚(8/8 終了時) ⇒213,238 枚 (8/15 終了時) **-3,769 枚**

### 2、ナイジェリア：南西部エド州、メインクロップの収穫が始まる(8/11)

ナイジェリア南西部のエド州で2014/15期のメインクロップの収穫が開始された。この地域では、農家は天候に恵まれ、カカオ豆を十分に乾燥させることができた。

ナイジェリアのカカオ協会(CAN)のスポークスマンである Ewerami 氏は「カカオポッドの中になったカカオ豆は通常より大きく新鮮である。メインクロップのカカオ豆の収穫は小規模であるが開始された。」と述べた。

エド州のトレーダーによると、今年は適度に降雨があったことが功を奏して収穫の開始時期が例年(9月～10月)より早まったという。また Ewerami 氏によるとエド州では5月に雨季が始まり特に7月になると激しい豪雨や継続的な降雨があるという。

彼はまた「雨季の中でも8月に3週間ほどの乾季がある。これをオーガスト・ブレイクと呼ぶが、今年もそれが始まった。この期間に農家はメインクロップの収穫を開始し、カカオ豆を日光によって乾燥させる。」と述べた。

CANによると、エド州(ナイジェリア最大のカカオ豆産地であるオンド州に隣接)は年間5万トンのカカオ豆の買い付けを行っている。

Ewerami氏は「カカオ豆の重さが300粒あたり290~300gとなり、昨年より大きくなっている。エド州で収穫されたカカオ豆は、直近ではトンあたり47万ナイラ(約\$2848)で取引されている。」と述べた。

一方、オンド州の州長であるAkinyele氏は「オンド州では先週に2014/15期の最初の収穫が始まったが、3日前によろやく雨が止んだところである。」と述べた。

また彼は「長い間待ちわびていた晴れ間が来て、農家はメインクロップの収穫に着手した。ずっと雨が降っていたのでよろやく天日乾燥ができるようになった。」と加えた。

### **3、カメルーン：カカオ豆価格が3年ぶりの高値をつける＝中部(8/11)**

ミッドクロップが終わりに近づきカカオ豆価格が押し上げられている。

カメルーン中部で5万3000件ものカカオやコーヒーの農家を束ねる農業組合の代表は「我々はカカオ豆をkgあたり1285~1325 CFAフラン(\$2.67~2.756)で取引している。先週は1250~1275 CFAフランであった。」と述べた。

カメルーン中部だけで、カメルーン全体のカカオ豆生産量の約40%を占める。カメルーンでは2013/14期に22万8911トンのカカオ豆を生産したが、トレーダーや農家によると2014/15期はカカオ豆に対する病害や悪天候で生産に打撃を与える懸念があるという。

### **4、コートジ：8月10日までにカカオ豆の着荷量、169万7000トンの見込み(8/11)**

コートジの港に着荷したカカオ豆は、昨年10月2日以降、8月10日までに169万7000トンに達した。

昨年の同時期には139万5000トンであり40%以上の上昇となっている。

コートジのカカオ・コーヒー委員会(CCC)は予想着荷量を159万8000トン(6月30日時点)としていたが、約32000トン下方修正され、予想着荷量を156万6290トンとした。

この数字を考慮すると、8月3日までの着荷量も同様に下方修正され、170万7000トンから167万5000トンとなる。

8月4日から10日までの1週間で、約2万2000トンのカカオ豆がアビジャン港やサンペドロ港へ出荷されたとされている。ちなみに昨年の同時期には7000トンであった。

### **5、アジア：パウダー在庫が重しとなり2014年以降の圧砕はペース鈍る見込み(8/14)**

- ・第3四半期、第4四半期の圧砕量は改善の見込み
- ・インドネシアの新しい工場が稼働開始、これにより圧砕高は上昇する見込み

アジアにおける2014期のカカオ圧砕量は、世界的なチョコレート需要の高まりやインドネシアの新工場の稼働開始に伴い上昇する見込みである。しかしココアパウダーの在庫が積みあがる中、2015年度の圧砕量は減少するとされている。

堅調なココアバター需要に対して、バター価格は数年来の高値を記録しトンあたり\$8000となっている。しかしパウダーに関しては飲料メーカーからの需要が、バター需要に追い付いておらず依然として在庫が重たい。

アジアの第2四半期の圧砕量は5.2%上昇し16万1805トンとなった。ちなみに最も高かったのは2013年の第4四半期で17万684トンであった。この背景には多国籍企業がカカオ豆の安定供給を求め、インドネシアに

圧砕工場を移していったことがある。

インドネシアはコートジ、ガーナに次ぐ世界第3位のカカオ豆生産国である。

アジアの主要な圧砕業者の関係者は「アジアでは圧砕工場が増えてキャパシティが大きくなっているが、その結果としてマージンが厳しい状況である。私の予測では過去4年間でアジアの圧砕容量は30万トン以上も伸びている。」という。また「この厳しい経営状況が次の12か月も改善されなかったら、圧砕ビジネスから手を引く企業や、企業合併などが生じうるだろう。」と加えた。

インドネシア、マレーシア、シンガポールの設備容量は現在年間100万トンを少し上回る。

ディーラーは2014年度の取引契約やインドネシアの新工場稼働を考慮し、第3、第4四半期も依然として圧砕高は伸びると予測している。

市場分析会社であるEuromonitor International社によると、アジア・太平洋地域からの需要によりチョコレート需要は5%以上伸びるとされている。しかし一方で欧州や米国からの需要は停滞している。

インドネシアに15万トンの設備容量をもつBT CocoaのJasman氏は「アジアにおける5%の需要増の予測は保守的すぎる。」また「我々圧砕業者は通常、スポットでの一時的で単発的な取引を行っていない。アジアの圧砕量増は昨年の契約分によるもので必然的なものである。言えることはアジアの需要の長期的な成長は当然の結果だ。」と述べた。

インドネシアの圧砕容量は今年の終わりまでに約85%上昇し60万トンへとなるだろう。この背景にはカーギルやバリーカレポー、ガンチョンなどの企業が新たな工場や設備に投資していることがある。

チョコレート製造メーカーはクリスマス需要に対応する為、9月にはココアバターの買い付けを進めるだろう。しかしココアパウダーへの需要は依然として弱いとされる。パウダー価格は1月以降、すでに30%以上下がりがトンあたり\$1500となっている。

シンガポールのディーラーは「他国に工場の設備投資をした場合は、工場をフル稼働させる必要がある。その結果としてパウダーはますます厳しい状況に置かれるだろう。私の予測としては第3四半期には圧砕量は1~2%上昇し、また第4四半期には3~4%上昇するとみている。」と述べた。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp